

コロナウイルス文献情報とコメント(拡散自由)

2022年8月17日

Lancet: ロングコロナ：本当に新型コロナウイルス感染によって発生した症状は何か？：忘却バイアスの調整（松崎意識）

【松崎雑感】

問診調査では、思い出しバイアスを調整する必要があります。「〇〇の後△△という症状が発生したとの回答があっても、実は〇〇前から存在している症状であることが少なからずあります。この思い出しバイアス（忘却バイアス：松崎）を調整するために、〇〇（この場合は新型コロナ感染）未経験者に過去の一定期間での症状のあるなしを質問し、その結果を〇〇経験者の回答と比較します。これにより、ロングコロナ特有の症状をあぶりだすという手法です。ロングコロナの研究は始まったばかりです。大変ですね。

ロングコロナ：本当に新型コロナウイルス感染によって発生した症状は何か？
：忘却バイアスの調整

Brightling CE, Evans RA. Long COVID: which symptoms can be attributed to SARS-CoV-2 infection?. *Lancet*. 2022;400(10350):411-413. doi:10.1016/S0140-6736(22)01385-X

新型コロナウイルスの死亡率は、様々な感染防止対策と、ワクチン、抗ウイルス薬、抗炎症薬などで低下している[1]。

しかし、コロナサバイバーにおけるロングコロナが問題になってきている。

ロングコロナは急性感染から数週あるいは年単位で様々な慢性の症状が継続する状態である[2]。ロングコロナの初期研究によれば、新型コロナウイルス感染診断から60日以降、あるいは急性期症状消失から30日経っても継続する慢性の体調不良率は73%だった[3]。

しかし、罹患率は、ロングコロナの継続期間、対象人口、症状の種類により異なる。最近地域ベースのロングコロナ罹患率の調査が行われたが、それによると慢性症状の継続率は低かった[4]しかし入院した人々の50～70%では、長期間体調不良が続いていた[5-7]。

現在までに世界で5億人以上が新型コロナに感染しており[1]、ロングコロナに悩む人々も極めて多いはずである。

この5月、英国国家統計庁は、自己申告データに基づくとイギリスで200万人がロングコロナになっていると推定した[8]。12週以上症状の続く者が72%、1年以上が42%、2年以上が19%だった。

倦怠感が最も多い症状で、次いで息切れ、咳、筋痛だった[4-8]。ロングコロナに関連する因子は、女性、肥満、中年（35～65才）、低経済レベル地域居住、基礎疾患保持などだった[1,5,6]。ロングコロナ者では、家庭医受診頻度が多かった[9]。

ロングコロナ症状とされている多くの症状のうち、新型コロナ感染との関連の有無が十分明らかになっているとは言えない。新型コロナ感染前から存在していた症状が、感染後に出現したと回答される場合もある。

アランカ・V・バレリング氏のチームは、本誌に2020年4月から2021年8月まで実施された北オランダ地域の縦断的コホート調査結果を発表した[10]。

23症状の消長を24回の質問票送付で調査した。この研究の強みは、調査参加者自身が、感染から3～5か月間の症状の種類と重さを自己判定する点である。感染者4231名とマッチさせた非感染者8462名を比較した。平均53.7才、60.8%が女性、ほとんどが白人。

中等度までの強度の「ロングコロナ症状」を申告した者は感染者の21.4%と、非感染者の8.7%に見られた。

したがって、新型コロナ感染と関係があるロングコロナ症状を申告したものは、感染者の12.7%、つまり8人に1人という事になる。

この研究の長所は、非感染者の「ロングコロナ症状」保有率を明らかにして、新型コロナ感染と関連のない症状を持つ可能性を、マッチドペアの手法でサブトラクションできたことである。

バレリング氏らの提起したロングコロナ症状リストは、これまでの報告と合致して、倦怠感と息切れ率が最多となっている[10]。彼らは、この研究で明らかにされたロングコロナの「コア症状」に基づいて、ロングコロナの診断をすることを提案している。

しかし、この研究のリミテーションは、オランダの一地方での調査であること、白人を対象者のほとんどだったこと、メンタルな症状が調査項目になかったことである。また、ロングコロナの発症メカニズムに関する考案がなかった。

自己申告による症状の重さ別に分類を行った調査によれば、全身の炎症が強いほどロングコロナ症状が重かったという[5,6]。

患者の自己申告重症度とバイオマーカーという客観指標を総合することで、ロングコロナの診断の確度を高め、適切な治療につなぐことが可能になるためには、さらに検討が必要だろう。

最近、感染前にワクチン接種を完了している人々では、ロングコロナ率が低下するという知見が明らかにされている[11]。また、オミクロン株感染者は、それ以前の変異株感染者よりもロングコロナ率が低くなるという[12]。

英国国家統計庁の調査では、感染後にワクチンを接種すると、ロングコロナ症状が軽くなり、追加接種でさらに軽くなるという[13]。新型コロナ感染の急性期治療がロングコロナの率と重さに影響を与えるかどうかはまだわかっていない。

現在までに明らかになっていることは、ロングコロナが稀な状態ではないこと、2年以上続くこともあること、日常生活に大きく影響する重い症状となるものは少ないということである。

今後必要なことは、ロングコロナの診断基準を改良すること、ロングコロナの病型分類を行うこと、そして何よりも発症メカニズムを解明することが決定的に重要である。

それができたなら、一人一人に合った様々な治療で病状を改善できる人々が増えるだろう。